

## 平成29年度第2回南あわじ市総合教育会議会議録

1. 日 時 平成29年11月6日(月)

午前10時00分開会

午前11時25分閉会

2. 場 所 南あわじ市役所 第2別館 第5会議室

3. 協議事項

- (1) 学校・幼稚園の再編について
- (2) 教員の資質向上及び負担軽減について
- (3) 児童生徒の学力向上について

4. 出席又は欠席した構成員氏名

出席構成員

<南あわじ市>

南あわじ市長 守本 憲弘

教育長職務代理者 宮崎 典弘

教育委員 岡 一秀

教育長 浅井 伸行

教育委員 轟 孝博

教育委員 数田 久美子

<学校組合>

管理者 守本 憲弘(兼務)

教育長職務代理者 狩野 時夫

教育委員 宮崎 典弘(兼務)

教育長 浅井 伸行(兼務)

教育委員 岡 一秀(兼務)

教育委員 河上 和慶

5. 事務局関係職員氏名

企画部長 堤 省司

教育次長 福原 敬二

学校教育課長 山川 直樹

体育青少年課長 松本 典浩

教育総務課課長補佐 坂田 真由美

ふるさと創生課長 柴井 賢次

教育総務課長 山見 嘉啓

社会教育課長 福田 龍八

青少年育成センター所長 永田 加織

教育総務課係長 新地 美里

開 会 午前10時00分

【山見教育総務課長】 早朝よりありがとうございます。

ただいまより、平成29年度第2回総合教育会議を開会します。

開会にあたり、守本市長よりごあいさつをお願いします。

【守本市長】 おはようございます。

本日はお忙しい中、第2回の南あわじ市総合教育会議、ご参集いただきましてありがとうございます。また、今日は新しく狩野委員をお迎えさせていただいて、よろしくお願いいいたします。

前回もですね、非常に活発な議論をいただいたのですが、今日は前回からの継続のお話と、また新しい学力向上等のお話も出てきておりますので、本当に教育はまちづくりにとって非常に重要な問題だということを確認しておりますので、また委員の皆さん方の思いを是非お話していただきたいと思いますので、よろしくお願いいいたします。

【山見教育総務課長】 ありがとうございます。

会議に入ります前に、資料の確認をお願いします。

(山見教育総務課長より、資料の確認)

【山見教育総務課長】 それから、先ほど市長よりお話がありましたが、この9月1日から小中学校組合教育委員として、山下委員の後任として狩野時夫委員がご出席していただいております。よろしくお願いいいたします。

それでは、ただいまより協議事項1番から3番、4番その他ということで、1番から3番については事前協議の上、協議事項を絞って深く掘り下げたいと決定しております。

市長さん、よろしくお願いいいたします。

【守本市長】 それではですね、協議事項3つということでございます。

学校・幼稚園の再編について、これは前回にもですね、ご議論いただいたところではございますけれども、事務局の方である程度協議して再編方針案をつくっておりますので、説明をお願いいいたします。

【山見教育総務課長】 お手元の資料1をご覧いただきたいと思います。

これまで5月25日の第1回総合教育会議において、協議をしていただきましたが、

継続審議ということで、本日の議題に挙げさせていただいております。それより進行した資料案となっておりますので、よろしく願いいたします。

「小中学校及び幼稚園・こども園等の再編について、今後の方向に関する基本的な考え方（案）」ということです。以下、4件の方向を示しております。

1. 津井幼稚園について。 1)方針：当面は存続する。 2)理由：小学校が近くにある、幼小連携を生かした取組みができる。 3)改修実施年次：平成30年度を予定しております。先の9月市議会において、実施設計の予算を付けていただき、今設計にかかっております。 4)その他：①存続するうえで、地域の役割として園児を増やすことに努めてもらう。 ②当面の間としていることについては、社会情勢や環境の変化に伴い、児童数が現状より減少するなどの状況になった場合には再度方向性を検討する。

2. 三原志知小学校及び西淡志知小学校について。 1)方針：①三原志知小学校については、市小学校との再編を進める。②西淡志知小学校については、松帆小学校との再編を進める。 2)理由：2校とも現在、実施している特色ある取組みの成果は認めるが、それ以上に子どもたちの将来も含めた資質の向上には、統合した方がメリットの方があると考えます。 3)再編後の開校年次：①三原志知小学校：平成32年度（最短で）②西淡志知小学校：平成33年度（最短で） 4)その他：①スクールバスでの送迎を行う。②西淡志知小学校については、松帆小北校舎の大規模改造工事との調整が必要であり、整備計画では平成32年度工事を予定している。

3. 倭文中学校について。 1)方針：当面は存続する。 2)理由：生徒が他校を選ぶ最大の理由は、希望する部活動が出来ないことである。よって、三原中学校と合同部活動を進めることでこの課題解決を図る。 3)合同部活動実施年次：平成32年度。 4)その他：①合同クラブ活動については、送迎バスを配車する。②当面の間としているのは、このような方法をとっても生徒が他校を選ぶことに歯止めがきかなかった場合は、再度、方向性を検討する。

4. 沼島中学校について。 1)方針：当面は存続する。 2)理由：離島という立地条件から、小中一貫校教育を進めることが、子どもたちの能力を最大限に生かす教育環境であると考えます。 3)小中一貫校開校年次：平成32年度（手続き等確認を要す） 4)その他：①存続するうえで、地域の役割として児童生徒を増やすことに努めてもらう。②通学区域制度の弾力的運用（特認校制度）にて市内全域を校区とし、離島通学や離島留学等を検討する。

以上が案です。

【守本市長】 ありがとうございます。

それでは、本件の掲げられた方針につきまして、ご質問、ご意見等がございましたらよろしく願いいたします。

重要な案件ですので、皆さんの意見を聴いて決定するといったことに持っていくた

いと思っております。

**【數田委員】** 津井幼稚園については、幼小連携を活かした取組ができるようになっておりますが、実際にどんな連携があるのかなと思っております。幼稚園の運動会を見に行けたらよかったです、行けなかったので様子がよくわかっていないので。

三原志知小学校と西淡志知小学校については、概ねこういう形がいいのではないかなと思うのですが、今の学校の特徴をどんな形で残していくのか、うまく残してくれればいいという希望があります。特に三原志知小学校の「志童」ですかね。あの子どもたちをみていると心の底から楽しんで演技をしているということがわかりますよね。各学校のそれぞれの特徴をまた引き続きできるようにと思っております。あのような経験が将来、自信となるのではないかと思います。再編された後でもできたら随分子どもたちにとっても将来につながるよい経験になるのではないかと考えます。

倭文中学校についてですが、小規模校の良い点、そうでないところがありまして、不登校とかの相談を受けている中で、特性のある子どもは小規模校の場合は、周りが保育所からずっといっしょだから、「この子は、こんな子」だということで、周りがフォローして学校生活を送っていっていると。その中で問題なく生活をしているのですが、中学校を卒業して高校へ行ったときに、そこでつまづいている子がやっぱりいるのです。引きこもってしまっているという相談もあるのですが。保護者としては、中学校までは何も問題がなかったし満足していた。「この子はこういう子どもだから」と周囲の人がみんなわかっていたので、受け入れてもらいやすかったし、本人もこれは普通だと思っていたけれど、大きいところに行きますと周囲の配慮が必要になりますし、寡黙であまり活動的でない子どもにとっては非常に厳しい状況となって学校に行けなくなったということも聞いています。そういう子どもたちにとっては、地域での子どもへの理解があるので非常に過ごしやすいのですが、環境が変わったときにどういう対応をするということが、小規模校のよい面とそうでない面、次に行った時にどのように生きていけるかというところを学校として現場でそういったことも配慮しながら、いろんな場面づくりといいますか、そういうことが必要でないかと思います。反対に小さい学校だといろんな制約があって動けないということもありますので、学校では特に問題がないとしても、将来を考えての教育が必要ではないかと思います。

沼島中学校については、子どもが5人かそこらへんだと思うので、早急に対応策を取らないといけないのではないかなと思っております。地域の産業も含めて地域ぐるみでの人口増への取組をしていかななくてはならないのではないかなと思っております。

**【轟委員】** この4項目の方針について、いろんなことをきめ細やかに書いてもらっていますが、これについては、教育委員会定例会の中で確認をしております。ちょっと気になるのは、三原志知小学校と西淡志知なのですが、市小学校と松帆小学校は確かに

同じ学区で正解だと思うのですが、これは原則として市と松帆小学校に行ってもらおうと。ところが、バスはでるのですが、松帆に行くよりもはるかに榎列の方が近い子どももいるのです。その時に親として松帆に行かさないといけないのかということで、伊加利こども園の時のように保護者の意見を聴きすぎて、方向性が若干ゆるんだりしたこともあるので、そこはリーダーシップを取って教育委員会として強く言えるようなことをつくっておかないといけないと思います。あまりにも保護者や地域の意見を聴きすぎて方向性がゆるむことのないように、この4件についてがんばってほしいと思います。あくまでも主導は教育委員会の方で、子どものために市長と教育委員会がその方向で考えてやっているということの理解を十分にとっていただいて、この方向で進んでいってもらったらいいと思います。特に数田委員も言われていましたが、沼島中学校については、今度は1学年ゼロになる可能性があるということもあるので、そのへんの配慮がどのようにできるのかなということも、これから教育委員会で議論をしないといけないと思っているのですが、教育委員会主導でリーダーシップを取って、この方向で早く進めていってほしいと。これについては、我々も全面的な協力を惜しまないでやるということにしておりますので、よろしくお願いします。

【宮崎委員】 私もこの方針、その他理由等々につきまして、この意見に対しましては賛成しています。ただこの中で、「当面は存続する。」「再編する。」の話の中で、2番の三原志知と西淡志知のことについては、再編した後の、今現在している取組などを残せたらと思います。やはりこの理由にありますように、子どもたちにとっては小規模校という中で、個々を活かせるところもありますが、統合してある程度の人数の中で学校生活を送った方がメリットがあるのかなということも私も考えています。

倭文中学校についての合同部活動というのが、今まで南あわじ市というか淡路の中でもあまりなかった形ではありますので、当面存続する中で、どのように成果が出るか、どういう風な形で活動できるのかというところが興味もあるところでありまして、よい形で合同部活動というのできたら素晴らしいことではないかと思っております。

沼島中学校につきましては、先ほども先生方からありましたように、人口的なものもありますが、子どもの数というのと、職業というか、実際に沼島の中でそういう形で生活する中で、子どもも親も生活していく中で、なかなか人口が増えにくいことが確かにあると思うので、今後は島外の子どもを受け入れたり、小中一貫教育という取組ができれば非常に素晴らしいことかなと思っております。これらのことが人口増加や特色ある教育、魅力ある教育に結び着いたらよいと思います。

【狩野委員】 途中から委員になったばかりで、僭越ですけれども島内の小学校中心にここも指導している関係で、述べさせていただきます。

三原志知小学校と西淡志知小学校の再編についてですが、三原志知小学校は小規模

校の特色を活かした和太鼓で地域の信頼を得ていると思います。和太鼓ということで、ふるさと意識が高まっていると感じております。西淡志知小学校ですが、少人数学級のメリットを活かした授業づくりに一生懸命に取り組んでいました。校長自ら非常に意欲的だと思います。

両校とも小規模校のメリットを最大に活かしていると思います。そのあたりが恵まれているなと思ったところなのですが、ただ大きな中学校に行った時に、やっぱり今よく言われている「中1ギャップ」ですね。そういうところにならないかという心配を少ししています。両校とも手立てはしていると思うのですが、現実にはなかなか中学校へ行っても高校へ行っても、いまどきは甘くないと思うのです。納得してもらうのは、相当のエネルギーが必要と思うのですが、子どもの将来を考えたら、こういった再編が必要ではないかと思います。

沼島小中学校ですけれども、小中一貫校ということで、2校は同じ敷地内にあるのですよね。だから非常に導入しやすいし、一番のメリットは9年間を見通したカリキュラムづくりができるということですね。やっぱり子どもたちを育てられて、英語とか情報に特化した一貫した指導ということで取組ができるのではないかと思います。一番ネックなのは、児童生徒を確保することが課題であると思います。地域の協力も必要になってくるのではないかと思います。

**【岡委員】** 一応地元ということで、志知小学校についてお話しします。

三原志知小学校は、私たち小学校1年生の時はこちらへ通いました。小学校2年生からは、昭和の大合併の関係で、西淡志知小学校の方へ分かれまして、2校へ通ったのです。なくなるということは、非常に寂しいことなのですが、今の子どもの人数を見ていたら、もうちょっと人数の多いところで勉強をさせてやりたいなという思いは持っております。幸い市小学校は、私の最後の3年間、松帆小学校はその前の4年間、校長として市も松帆もいました。非常に両校とも受け入れる側としては、素晴らしい学校ではないかなと思います。志知の子どもたちを持っていても、預けてもスムーズにいけるのではないかという気がしております。松帆も市も素晴らしい学校ですので、子どもたちの成長にとってよい学校でないかなという思いを持っております。

西淡志知と松帆なのですが、併せて湊小学校も早急に何とかいっしょに考えたらいいのではないかと思います。湊小学校も、今は60人から70人で、だんだん減ってきておりますので、辰美の校区が1つになったように、昔の御原校区ですけれども、そこもいっしょになれば非常に素晴らしい学校ができるのではないかということを思います。

これは、吸収になるのですかね。校名というのは、そのままなのでしょうかね。そこらも住民からは、いろいろと意見がでるところではないかと思います。

この志知小学校については、この案でいいのではないかと思います。若干寂しい思

いはありますが、子どもにとってはこれでいいのではないかと思います。

あとの3件については、この案のとおりで十分に賛成しております。

【河上委員】 個々の実態等々については、あんまり直接関与する機会が少ないので、傍観者的な物の見方で申し訳ないのですが、1つ共通するのは、幼稚園のことは私どもの方も共通していまして、保護者が本当に、文科省が認知しているような幼稚園教育というものに純粋に求めているのかどうかということです。うちなんかは、逆ですね。もうほとんど公立幼稚園の役割は、今必要ではないのではないかとというぐらい純粋に幼稚園教育というものをやろうとしても、ほとんど集まらないのです。ですから、保育所に近いような幼稚園にしないと子どもが集まらなると。となれば、この幼稚園の再編となっていますが、新たな就学前教育のスタイルをつくっていく必要があるのではないかと思います。うちも5園の公立幼稚園があるのですが、2年後に2園にします。1園でいいのではないかとというぐらいなのですが。そののところをよく見極めないと、また2、3年後には認定こども園とか、いろいろ長時間預かってサービスが多く提供してもらえるようなものを保護者は求めてくる時代がくるのではないかと。特に女性の社会参画ということがどんどんなってきましたと、そのへんも視野に入れた中で、短時間のうちにまた再編ということにならないように進める方がいいのではないかと思います。

学校は、やはり小規模校のマイナスの方が、少人数であるがゆえ一番社会性なんか身につかない、教育ができないということであれば、やはり子ども目線になれば早く再編をやるべきだと思います。よくこういう問題になると地域論と教育論と衝突して、教育論だけでどんどん推し進めてきたものが、ある日突然、平成27年でしたか、地域論を出してきたのですね。「教育からいったら統合しなさい。」と言っています。「しかし、地域のことを考えてください。」と言い出したので、ややこしくなったのですね。やはり少人数が故に、デメリットがある。その中で我慢して学校生活を送る。これはやはり大人サイドで考えてやるべきだと思うのです。後は物理的なことは、バスを出すなり、岡委員が言われていましたように、新たな学校としてスタートするんだ、ということでは校名のこととか、吸収合併でも名前のおり「再編するのですよ」と。南あわじ市の学校を再編するのですよ、ということ強くアピールすることだと思います。他の地区の人が関係ないのではなく、市民みんなにアピールした中で次の世代を担ってくれる子どもたちの教育、南あわじ市の教育、そういうものをマスタープランというようなものを示していく中で、個々の地域にはこういう学校を設置する。そうしたら、吸収されるのかということが規模の小さい学校では出てきます。うちも中川原の時は、吸収合併ではないのか。作業的には過去の神社のことや付き合いがあったので、問題なくいったのですが、中には吸収ではないのかということがでてきます。校名とかは別にしてスタートは、新たにですよ、ということは言っていないと

いけないと思います。

やはり、子どもをどうしてやるか、ということに重きを置いて、進めるべきではないかと思います。この案でいいのではないかと思います。

1つ、轟委員が言われていたことですが、校区を決められたら遠くてもその学校に行かないといけないのか、ということがよく言われますが、弾力的運用の4項目に入っていたと思うのですが、行政は、通学区域を指定している。しかし、通学路の安全性とか教育的なことを考えた時に、認められていたと思うのですね。その点は、運用次第だと思います。不登校とかいじめの場合は、転校は認めますよ、とかですね。人的な要因も認めますよと。医療的なケアを受けている場合は、最寄りの病院のあるところに行ってもよろしいよと。弾力的な運用するのであれば、ある程度決まり事を決めていかないと揉める要因になると思いますので、教育委員会が認める特別な事情をきっちりと決めておかないといけないと思います。ですから、この再編計画はこの案で進めていったらいいと思います。

【守本市長】 ありがとうございます。

最後に教育長の方から、今までの意見を踏まえてお願いします。

【浅井教育長】 今でた意見のすべての回答になるのかどうかわかりませんが、基本的な考え方みたいなものも含めて説明させていただきたいと思います。

この方向性は、先ほどからご意見をいただきましたけれども、子どもたちにとって何がいいのか、これは今小学校の6年間、中学校の3年間の計9年間だけではなしに、近い将来、大人になると。大人になる基本的な力、社会人としての力が培われているのかどうかという観点で、今の子どもたちにとって何がいいのかということを議論させてもらって方向性を示させてもらったつもりであります。

この方向性については、2つの方向性を示させてもらっています。どの幼稚園も小学校も課題があると。その課題が、統合ということでしか解決できないのではないかとこのところについては、「再編」という形で示させてもらっています。今ある課題が、違う方向でまた解決できるのではないかと、ということについては、「当面」という形で方向性を示させてもらっています。当面ですから、その課題が解決できないと、いろんな取組をした中でできない、ということであれば、違う方向性を再度検討すると。こういうふうなことも地域や保護者の示しながら、説明はさせていただきたいと思っております。子どもたちにとって何がいいのかということの方向性をぶれずに説明していきたいと考えております。

その中で、個別のご意見をいただいた1つは、特色を残していくと。いかに残していくかということですが、これについては、太鼓だけではなく、人形浄瑠璃等もだんじり唄等も、それぞれの学校で郷土芸能、郷土文化を育むという取組がいろん

な形でやっていただいております。是非この取組を前に進めるような形で人形浄瑠璃等を活用した表現活動、コミュニケーション能力の向上という形で取り組んでいきたいと。その一環で太鼓等もこれからも続けられるような形で考えていきたいというふうに思っております。

それともう一点、小規模校のところについては、様々な課題があると思っております。その中で、一番大きな要素は、いかに多様な人と人間関係を構築するような力をつけていくかというようなことであると思っております。子どもたちが大勢の中でいろんな生活をするという中で、人間関係を構築する力をつけていくというのもそうですし、より地域、またはいろんな年齢層の方々とは触れあいながら生活する中で、そういうふうな能力も培われるように、そういうふうな観点でも、より小規模校については、配慮していきたいと考えております。

**【守本市長】** ありがとうございます。

いくつかご指摘といたしますか、これから進めていく上でのご要望とかもいただいたのですが、皆さんの基本的にはこの方針に賛成であるということなので、これからこの方針に基づいて進めていくということで、やっていただきたいと思っております。どうもありがとうございます。

先ほど沼島の話もありましたけれども、当然ですね、市全体の話として沼島についても、志知についてもそうなのですが、産業をどうやって更に振興させていくかという中で、これは当然の課題として取り組んでいきたいというふうに思っております。

ただ、その話と教育の話がごっちゃになって、非常に混乱してきますので、やはりそこは分けて、先ほど教育長の方からもありましたように、教育については、あくまでも子どもにとって何がいいのか、ということで考えていくべきだと思います。この方針についてサイドからサポートするというような形で、地域の在り方ということも考えながらやっていきたいと思っております。

それでは、1番目の課題については、そういうことでさせていただきます。

2番目、教員の資質向上及び負担軽減について、これについて事務局の方からお願いいたします。

**【山見教育総務課長】** これについてですけれども、先に資料2-2「ネット教育センターの考え方」ということで、教育総務課の池本係長、榎本主査の方で説明を申し上げます。

これは、あくまで教員の資質向上また負担軽減について説明するものです。

(「ネット教育センター計画」について説明)

【山見教育総務課長】 まず、この計画の説明に対して、ご質問等がございましたらお願いいたします。

【浅井教育長】 そうでしたら、少し補足をさせていただきます。

このネット教育センターは、ただ単にグループウェアや校務支援のソフトを入れるというものではありません。入れながら、特に先ほど説明がありましたように教員の資質向上と負担軽減という2つのことに特化した、重点を置いたネット教育センターでございます。教員の資質向上にとって、授業改善は欠かすことのできない課題であると思っております。優秀な授業を電子データ化して共有できるということであるとか、今、市、県内いろんなところで研修会、講習会が開かれておりますけれども、それが共有できていない、というのも大きな課題であるというふうに考えております。そのような研修会、講習会での中身について、全教員が共有できるシステムを構築していきたいと考えております。

【山見教育総務課長】 この後、学校教育課長より、引き続き教員の資質向上と負担軽減について、今やっている取組と今後の予定も併せてご説明申し上げます。

【守本市長】 とりあえず、教育センターに関してご質問等ございましたらお願いいたします。ないようですので、次に進みます。学校教育課長、お願いします。

【山川学校教育課長】 資料2-1によりまして、ご説明申し上げます。

「小中連携教科指導研修及び中高連携教科指導研修」について、今年度実施しております。小中連携については従来からやっておりますが、中高連携については、今年度よりということで、お互いの連携もそうなのですが、指導的な立場にある教員が教えることで、より専門性を高めるということもねらっております。今年度、淡路三原高校にも要請しているのですが、このほかのコラボレーションも予定しております。

「兵庫教育大学南あわじサテライト講座」、これは、仮の名前ではあるのですが、兵庫教育大学と教育提携を結んではどうかということで、今話を進めております。講師は、兵庫教育大学大学院 浅野良一教授で、対象は、次期管理職やミドルリーダー等を対象とし、学校経営を中心にした研修を行っていく予定です。現在決まっている予定が、ここにあるとおりで、平成30年度につきましては、未定でございます。内容によりましては、教諭についても研修の場を広げていこうと考えております。

「人形浄瑠璃を活用したコミュニケーション能力の育成について」でございます。これにつきましては、教育コンサルタントのキャリアリンクと協議しつつ、このあるような方向で進めております。平成30年度は、「ふるさと南あわじを大切にする

人づくりプロジェクト」として取り組む予定です。現在の方向性としましては、人形浄瑠璃だけではなく、南あわじの伝統芸能を含めてコアカリキュラムというものをつくる予定です。そのための今年度の研修予定は、ここに記載のとおりでございます。

「教員の負担軽減について」ですが、「グループウェア・校務支援システムの導入」については、先ほどの説明のとおりです。「部活動の在り方の検証」については、働き方改革というのは、全ての業種の方に言われているところですが、学校の方では、特に「ノー部活デー」というものを定着させていこうということで、目標としては平日に週1日、土日はどちらか1日の「ノー部活デー」。この方向性でどうかというところで協議を進めています。

「各校における業務改善の取組」につきましましては、学校において「会議時間の短縮や精選」「定時退勤日の徹底」「行事のスリム化」等、学校ごとに2つの目標を掲げて、取り組みましょうということで、ポスターを掲げて取り組んでいるところでございます。

以上でございます。

**【守本市長】** ありがとうございます。

それでは、資料2-1のことにに関して、ご質問、ご意見がございましたらお願いします。

特にないようですので、この方針で今後進めていくということで、お願いしたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

それでは引き続きまして、「学力向上」につきまして、事務局の方からお願いします。

**【山川学校教育課長】** 児童生徒の学力向上につきまして、説明をさせていただきます。

「全国学力・学習状況調査」ですが、資料の3ページから6ページまでをご覧くださいながら、聞いていただけたらと思います。

小学校は6年生、中学校は3年生が対象の平成29年度全国学力学習状況調査の概要についてご説明いたします。

調査結果は市と組合別々に届いておりますが、ここでは両方を合わせた平均を独自に出した上で、例年、資料にあります文章表記と口頭での概要説明にて、公表とさせていただきます。具体的な数字は申し上げませんが、全国平均よりも5ポイント以上より上の場合は「高い」、5ポイント以下より下の場合は「低い」。その間は、「概ね全国並みにできている」と捉えています。

まず学力調査の方ですが、小学校国語は、主に知識の力を見るA問題の平均は、全国よりも「やや低く」、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「言語事項」に課題が見られます。

同じく国語の主に活用の力を見るB問題の平均は、全国よりも「低く」、「書くこと」

を含めた全領域に課題が見られました。特に、具体的な叙述を基に自分の考えをまとめたり、伝えたりすることに課題が見られました。

小学校算数の「知識」は、全国よりも「低い」結果が出ており、「数と計算」「量と測定」「図形」「数量関係」の全領域で課題が見られます。

同じく算数の「活用」につきましても、全国よりもさらに「低く」、全領域で課題が見られます。特に、与えられた資料や数量から、関係性を捉え、答えを求める記述問題に課題が見られます。また、「記述式」の問題に無回答が多いことも大きな課題であります。

中学校につきましても、国語の「知識」「活用」とも、全国を少し上回っております。その中で、登場人物や相手の言動の意味を考えたり、自分の考えを分かりやすく伝えたりする問題に課題が見られました。

数学につきましても、「知識」「活用」とも、全国よりも「やや高く」全領域において良好です。その中では、数学的な表現を用いた説明などの記述問題において若干の課題が見られました。

次に、学習状況調査についてです。小学校、中学校ともに共通しているのは「朝ごはんをきちんと食べる」「いじめはどんな理由があってもいけないと思うと考える」「家で宿題をしている」この3点の児童生徒の割合は、全国・県に比べて高いことです。

これ以外の項目については、小学校よりも中学校の方が良好な傾向が見られます。特に、中学校では「予習・復習している生徒」の割合は全国・県よりも高くなっていますが、小学校では宿題以外の家庭学習の時間が短く、「テレビやビデオ等の視聴、テレビゲーム等をする時間」が全国・県よりも10ポイント程度も高いことが分かりました。また、読書についても「好き」と答えた割合は小学生は全国・県よりも低く、中学生は高くなっています。

これらのことから、小学校での学力向上については、まずは授業で「自分の意見や考えを書く活動」をしっかりと取り入れると共に、「文章や資料を読んで自分の考えをまとめたり、発表したり、話し合ったりする活動」を行うなど、授業改善を行うことが重要です。また、家庭においてはテレビなどのメディアに触れる時間について、家庭内でルールを作り時間を制限するとともに、学力の基礎基本を支える家庭学習や読書の習慣化を図っていく必要があると考えます。

中学校については、規律ある学校生活が安定した学力にも好影響を与えていることから、現在の良好な状況を継続していくことが大切です。基礎基本の上に積み重ねた応用力をさらにつけ、部活動とのバランスを考えたメリハリのある学校生活を送れるようにしていくことが大切です。

今年度も、保護者向けに「リーフレット」を配付し、家庭学習の習慣化に向けて、啓発していく予定です。

続きまして、「がんばりタイム」ですが、これは、放課後に各校に講師を派遣して、

復讐や基礎基本を中心に学習を行う取組なのですが、今年度は9校の小学校でスタートいたしました。が、現在の学力調査の結果を受けまして、11月から2校増やしまして、11校で実施しております。来年度、12校、すべて小学校なのですが希望がございます。

次に「ALT・ST等を活用した放課後の学習」ということで、放課後にALTやST（サポートティーチャー）英語の得意な日本人ですが、この方々の力を活用して南あわじ市小中学生の英語を中心として学力向上を図る取組を考えております。対象校を限定するのですが、その中には沼島小中学校を含んで小学校6年生、中学校3年生の希望者ということで、取り組もうと考えております。特科的に英語に重点を置いた、先生の負担は増やさず、英語に特化した学力向上を図っていこうとするものと考えております。

以上でございます。

**【守本市長】** 児童生徒の学力向上につきまして、大雑把に言えば、小学校は「いまいち」中学校は「ほぼほぼよい」というような結果がでたということでございますが、ご質問、ご意見、よろしくお願いたします。

**【河上委員】** 全国的な傾向として、基本的な生活習慣がよい者は、学力は優位であると。小学校も中学校も基本的な生活習慣はできているのにもかかわらず、なぜ小学校は平均より低いのですかね。

**【山川学校教育課長】** それにつきましては、メディアに取られる時間が非常に多いところ、それによって家庭学習がなかなか継続的にできていない。6年生になると社会体育等で夕方や夜の時間を過ごしていることが多いのでは、というところが1つにはあるのではないかと考えおります。ただ、小学校に間にいろんな体験をし、人間関係等も培われているのではないかとこのところは評価しますが、なかなか小学校の段階で学力には結びついていない状況です。

**【守本市長】** がんばりタイムを9校でスタートしたということなのですが、このがんばりタイムをやっている学校とやっていない学校、内訳は言っていただく必要はないのですが、この差は出ていたりしますか。

**【山川学校教育課長】** 統計はしていないのですが、しているから高い、とは限らない結果です。がんばりタイム自体につきましては、低学年、中学年を中心にやっていることもありますので、学校によっていろんな取組の仕方を任せております。高学年のみにやっているとかではないので、今年度の取組は高学年にもしっかりとテコ入れする

ということでやっております。

【數田委員】 孫の宿題をみていて、学校として、この学年は宿題は多いけれども、次に上がったら宿題が少ない。低学年が宿題をやるのが習慣化されても、次の学年にいったら少なくなってやらなくなったり、波があるような気がするのです。学校全体として、一貫したものがあるといいと思います。宿題の少ない先生にあたったら楽だとか、子どもですから。そういう偏りがない方が、質もあると思うのですが。学校としても流れといいますか、方針といいますか、どれが適切なものか、方針を統一してあげればと思います。

【守本市長】 ありがとうございます。

【轟委員】 私の方は、基本的な生活習慣のことは非常に大事なことと思うのですが、初めて孫を持って、小学校1年生なのですが、もうちょっとで登校拒否になっていたのです。それはどういうことかということ、朝ごはんを一生懸命食べさそうとして、朝ごはんを食べすぎたら給食が食べれないということで、先生に給食を全部食べないと怒られると。それで1か月くらい学校に行くのが大変だったのです。小学校の方に行って、校長先生に相談しまして、給食の量を減してあげてください、と配慮していただいて、先生に遅くても怒らないでとお願いしました。遅い子どもは片づけをしないといけないという罰則みたいなものもあったようなのですが、そういうことで朝ごはんも一切食べなくなってしまったのです。そういう子どもも他に何人もあるのだと思うのです。あれをもしも放っておいたら、登校拒否になっていたのではないかと思うのです。ですから、小学校の先生の一挙手一投足というのは、ものすごく児童に影響を与えますので、やはり先生を好きになるような生徒にさせていただけることが、学力向上につながるのではないかと思います。甘やかすのではなく、個々の特性に応じた配慮をしていただきたいと思います。

【宮崎委員】 このALTとSTの活用した放課後の学習ということで、内容をみていましたら、小学校6年生、中学校3年生の希望者、1校20名程度ということなのですが、意欲のある子どもは申し込んで、こういう形で放課後に授業を受けて、でも、これは苦手な、参加するのはやめておこうという子どもたちと学力の差が逆にできるのではないかという感じが少し受けたのですが、今からモデル的に実施するということなので、学力向上はする子どもはするであろうけれども、ひょっとしたらそうでない参加しない子どもとの差がすごく空いてくるのではないかということが少し心配なのですが、こういった子どもについて配慮しながら考えていったらいいのではないかと感じました。

【守本市長】 ありがとうございます。

【狩野委員】 全校学力調査で分析するのは、授業改善が目的かなと思ったりするのですが、教職員みんなで共有している学校もあれば、一部で分析だけで終わっている学校もあるのではないかという気がします。学校によって大きな違いがあるのではないかと思います。

南あわじ市は、小学校4・5年生も到達度テストを実施していますので、高学年の傾向と対策になることはやっていけるのではないかと思います。

小中学校の時代から南あわじ市はだけではないのですよね、淡路全体が学力が中学校より小学校の方が低い傾向にあるのではないかと思います。そこらへんを、中学校であったら高校へという出口があるので、親も子どもも真剣になるのですが、小学校では学級内の評価で親も子どもものんびりしているのかな、と思ったりもしますし、今、キャリア教育といって子どもたちに夢を持たせて、それに向かっていくという新しい課題が入ってきているのですが、親子で将来について語り合ったりするというところで、少し子どもたちも目標を持ってがんばるのではないかと思います。

3点目に、がんばりタイムは、先ほど聞くと小学校だけであったのですが、中学校でも実施すればと思ったりするのです。クラブ活動で忙しいのですが、つまずいている子どもをフォローするのもあったらいいのではないかと思います。以上です。

【守本市長】 ありがとうございます。

【岡委員】 中学校が成績がよいというのは、学校の先生ががんばっているのかなということだと思ったりします。私も中学校で数学をずっと教えてきて、数学はこの田舎でも結構、塾というものが流行っていて、行っている子どもが多かったのですが、国語の成績がよいというのは、国語の塾は行っていないように思うので、なおかつ成績がよいというのは、中学校の先生方がのんびりがあるのではないかと思います。

先ほどの教員の資質向上のところでも出てきていたのですが、小学校の教科担当者会や授業研究会、これは非常に有効ではないかと思います。小学校の先生は、専門というのではないのですよね。ですから、中学校の先生方の専門の分野の授業を見せていただくということが、教員の資質向上並びに子どもの学力向上につながっていくのではないかと思います。ですので、この小中学校の教科担当者会とか授業研究会というのは、非常に有効ではないかと思いますので、これからも積極的にやっていただいたら有難いと思います。

以上です。

【守本市長】 ありがとうございます。

【河上委員】 洲本市のことで紹介しますと、凡事徹底といいますか、学校スタンダードをもっているところは強いですね、安定しています。うちも規模が小さい学校があったりしますが、きちりと学校のスタイルをもっているところは安定しています。

それは、1つの凡事徹底というか、「授業はこんなものだ」ということを早く作ってしまうことがいいように思います。意図的にはかりかけたものが、どういう結果になっているのか徹底して分析する必要がありますね。恐らくこれだけ学力問題が社会問題になっているのですから、どの学校もそれなりの工夫、自校に合ったものを行っていると思うのですね。それが、仕掛けてどれだけのものになっているのかどうか、その分析結果を教室でやっていくとスタンダードなものできていくのだと思います。

この前の淡路の算数の研究会でお願いしてあるのは、算数の研究会だから、小学校だから中学校からはあ誰も来ていないのです。あれだけ丁寧に授業をしているものを中学校に持ってあがっていくとどうなっているのか。そのへんに淡路の教育の1つ解決策があるのではないかと。基本的なことはできているし、子どもたちも前向きですし、純朴ですので、指導者のスタイルのよってかなり変わるのではないかと思います。それには、小学校に行っても中学校に行っても先生の言ってることはいっしょだよ、というスタイルを作っていくってほしいです。

やっとな本市も小中高と生徒指導だけいっしょにやり始めているのです。小学校の性教育をきちりと受けといてもらわないと高校で望まない妊娠をしてとんでもないことがあるので、そこらへん少し反省があったので、こういうふうな分野は結構、連携しております。教科書なんかも、小中、特に義務教育の間はきちり連携をやるべきではないかと思います。これは、校長会なんかでもお願いしているところです。

以上です。

【守本市長】 ありがとうございます。

この皆さん方の意見を踏まえてやっていただいたらと思うのですが、教育長の方からもお願いします。

【浅井教育長】 学力向上に関しては、2つの課題があると思います。1つは、教員の資質向上と子どもたちの取組と2面があると思います。教員の資質向上の観点からは、先ほどの取組で進めていきたい。子どもたちの取組については、いろんな分析もあろうかと思いますが、山川課長とも何回か今の状況をどう考えるかということで意見交換をいたしました。簡単にいうと、小学校は授業以外で勉強する時間が少ない。ほかの理由もありますけれども、中学校は授業以外で勉強する時間が長いと。それも反映されているのかなという中で、小学校の時間が少ないということをどう捉えるか。

先ほども山川課長からちょっと話がありましたけれども。夜に少年野球とかサッカーとかバレーとかで出ていく。南あわじ市は非常にスポーツが盛んですから、そういう社会が子どもたちを支えているというか、逆に違う面で子どもたちを支えている面がある。そういうことは、当然学習時間が少なくなるという要因にもつながっているのではないかと思います。だからこそ中学校で力を発揮してくれるのかなという考え方もある。そういったことも考えながら、子どもたちの取組については、どうしたらいいかということを考えていこうと思っていますけれども、最低、来年はこの全国学力状況調査にありますように、黒の三角の部分について、それぞれの学校でどう取り組むのか、具体的にどう取り組むのか、という迫り方をしていきたいと考えております。

以上です。

【守本市長】 3点だけ後出しですけれども、1つは疑問のその1は、結構、学年によってばらつきが出ると思うのです。小学校で今一つで、中学校でよいということは、先ほど淡路全体でもそうではないかというお話があったのですが、コンスタントにそうなのかということです。たまたま今回だけ、その学年の様子で今回だけってことではないという理解でいいのですか。

【山川学校教育課長】 今回中学生が、中学校3年生が小学校6年生の時のデータを見たのですが、6年生の時もちょっと低いのです。だから、少し低かったものがここまで伸びてきたと思ったりします。ですので、今まですべてそうだと言えませんが、小学校では低いですが、中学校で挽回していることがあるようです。

【守本市長】 2点目、3点目は私の感想なのですが、先生が宿題を出すということが、私の子どももですね、大変困った時代があったのです。小学校1年生の時の先生が全然宿題を出さない先生で文句を言ったことがあるのです。そうなるとう宿題をする癖がつかないのです。やっぱりその資質を揃えるといいますか、方針を揃えるということは是非やっていただきたいということが1つで、もう1つは、先ほどがんばりタイムの話があったのですが、フランスに行っていたときには、学童保育で全部宿題はやってしまうということはかなり徹底してやっているのですよね。娘2人向こうの学校に入れて小学校で非常に難渋したのですが、宿題も多かったのですが、それがあったおかげで何とか乗り切れて、この後非常に順調にいったということがありました。

一方で、日本の学童保育では教えたらいけないことになっているのですよね、訳のわからない話なのですけれども。このがんばりタイムというものを多少コストがかかっても、もっと力を入れていくべきではないのかと思います。私1人の経験でどうということではないのではないのかもわかりませんが、一方で非常に教育の所得格差というものが言われています。塾に行っていたら追いつけるけれども、行っていない子ど

もは追いつけないということでは困りますので、市としてもそういうところをもっと考えていけばと思っています。もう少し、またがんばりタイムの効果というものを教えていただきながら、もしここを增強していけば成果がでていくということであれば、スポーツは、教えていただける方の関係で夜にやっていることが多いのであれば、むしろ昼間にがんばりタイムをとるという形が取れると非常によい形になるのではないかと、いう気持ちもしますので、これは是非考えていただきたいと思います。

それでは、児童生徒の学力向上については、これで終わります、その他で何かありましたら。

ないようですので、それでは、今日は大変実りのあるお話ができたように思います。ありがとうございました。また、特に再編については、これからいろんなハードルが出てくると思いますけれども、ご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます、本日の第2回南あわじ市総合教育会議を閉会させていただきます。

どうもありがとうございました。

開 会 午前11時25分